

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	下水道河川課担当課長 加藤 隆志	
都整-30	重点事業	汚水排水施設整備事業(特別会計) <input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	主管課	下水道河川課
			関連課	都市整備総務課
総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道の整備・管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	生活環境の改善及び公衆衛生の向上に寄与し、公共用水域の水質の保全に資するため。
効果	下水道の整備に伴い、川や水路の水質を改善する。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

・下水道法第23条(公共下水道台帳の作成・保管・閲覧の義務付け)に基づき、下水道台帳の調整を行い、市民等への情報提供を行った。 ・経年劣化が著しい汚水管路施設を対象に、施設の機能低下、施設の破損等による道路陥没、そして浸入水による溢水などに対する予防保全措置を講じた。 ・宅内排水設備の設置に伴い、未設置となっている公共汚水ますを設置した。 ・前年度からの繰越明許費により大船東枝線の公共事業(汚水)築造工事、小町枝線の公共下水道(汚水)改築工事を行った。 ・極楽寺圧送管、東部圧送管の公共下水道(汚水)改築工事については、年度内に完了できないため、翌年度に繰越しを行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
	事業の対象者数			事業の対象者数			
運営資源状況	決算値(千円)	298,945	71,419	当初予算(千円)	190,203		
	国県支出金	83,010	13,000	国県支出金	11,990		
	地方債	192,283	49,498	地方債	121,623		
	その他	2,878	1,502	その他	1,043		
	一般財源	20,774	7,419	一般財源	55,547		
	人員配置数	5.4	5.4	人員配置数	5.4		
事業経費運営	人件費(千円)	42,060	42,702	人件費(千円)	42,055		
	総事業費(千円)	341,005	114,121	総事業費(千円)	232,258		
	市民1人当りの経費(円)	1,932	647	市民1人当りの経費(円)	1,316		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
		協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容	
	事業内容・予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	施設の老朽化が進行しており、不明水の侵入や溢水防止対策を合わせて行う必要がある。	

総評(評価に対する考え方、根拠等)	市民生活に直接関わりのある重要な事業であることから、事業は妥当である。事業費の平準化を図りながら補修・更新を図る。
-------------------	---

平成30年度(2018年度)事業実施にあつての課題 (前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 市街化区域の整備の課題としては、主に未査定道路であり、道路査定には隣接土地所有者の理解と協力が必要となるため、解決に時間がかかっている。 雨天時における汚水管渠への浸入水が多いことから、汚水の溢水等が頻繁に発生している。 	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> 市街化区域の未整備箇所について再精査し、整備可能箇所について、事業化に向けた準備を行った。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> 道路の隣接土地所有者や私道路における土地所有者の理解と協力が必要である。 大雨時等に汚水管渠に不明水が大量に浸入することから、汚水の溢水防止対策等が必要である。 	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	公共下水道の人口普及率(%) 神奈川の下水道から 平成29年度末								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	97.7%	95.6%	95.6%	97.5%	82.7%	97.8%	67.2%	100.0%	34.1%

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	公共下水道事業は、施設整備をして人口普及率100%を目指す事業であるため、神奈川県がまとめている資料から、他都市の人口普及率と比較した。人口普及率は比較的高いといえる。今後も人口普及率100%を目指し未整備箇所の整備に努める。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	管更生延長					単位	m	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	H30年度は管更生工事に替えて取付管の布設替えを行った。		
予防保全型の取組の手法のひとつであるため。	目標値	950.0	1,200.0	700.0	700.0	700.0	700.0			
	実績値	701.0	1,106.0	0.0	749.0	212.0				
	達成率	73.8%	92.2%	0.0%	107.0%	30.3%				

指標の内容	長寿命化計画によるマンホール蓋の更新(累計数)					単位	個	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	H26年度からH30年度までの計画(目標値は累計) H27の実績はH26事故繰越分を含む		
平成26年度に策定した「鎌倉市長寿命化計画マンホール蓋編」に基づく計画であるため。	目標値	30.0	60.0	90.0	120.0	150.0				
	実績値	0.0	66.0	77.0	140.0	150.0				
	達成率	0.0%	110.0%	85.6%	116.7%	100.0%				

指標の内容	マンホールの耐震化(累計数)					単位	個	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	H26年度からH28年度までは旧計画、H29年度以降は新計画		
平成26年度に策定した「鎌倉市下水道総合地震対策計画」、平成28年度に変更した「鎌倉市下水道総合地震対策計画(第Ⅱ編)」に基づく計画であるため。	目標値	16.0	37.0	53.0	14.0	28.0	42.0			
	実績値	0.0	25.0	38.0	10.0	21.0				
	達成率	0.0%	67.6%	71.7%	71.4%	75.0%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	管更生については、継続して取組んできた事業であり、今後も実施していく。マンホール蓋の更新及び耐震化については、計画に基づき、引き続き進めていく。
-----------------------	--